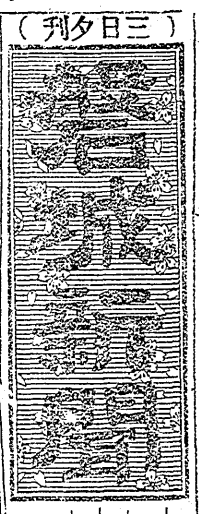
（三日夕刊）

休刊　大祭日翌日

定價　一ヶ月　二錢　郵税　六十錢　十五錢
廣告料　後行六十錢　搭載廿錢　号

福島縣磐城郡平町南町十六番地
發行所　聲城新聞社
電話五六九番



上高地遊記

綠江生

（三）

嗚呼この絶景とこの世にもかゝる風景があつたのかと思ふとも欣然として手の舞へ足の踏むところを知らなかつた。

河童橋で何程の時間が經つたか五千尺の高地の川風が身にしみて寒さを覺えたので宿に引き返いす事にした

この夜床に就てからもこの光景が目に浮んで興奮が中々止まらなかつた

朝の上高地

上高地の朝は又格別だ窓をあけると梓川から化粧柳は全く雲に覆はれて見えないが窓の上縁のあたりに大蛇の齒並の樣なアルプスの山々の峯々墨畫の樣に見わたるのだ、そして空は晴れてゐるのだ、と見る穗高の峯から六百山の峯にかけて大きな虹が立つた何といふ美觀だらう、アレヨ〳〵といふ間に忽焉として消えて跡方もなし、やがてだん〳〵化粧柳も雲のあひまに姿を現はし梓川の流れも隱見して來るあたり全く一幅の畫だ

新鮮なゆばなに舌鼓を打つて約里餘の上流にあるといふ明神池を見るべく出かけた鬱蒼と茂る天然林の木の下に暗を梓川に添うて行くのだが道は宿の番頭共が自轉車で往復してゐる程の手垣さだ、途中學生のキャンプ生活が所々に營まれて居、道で行き交ふ人達は知るも知らぬも尙單な挨拶を交はして行くのも嬉しい現象の一つだ。

熊笹の藪を分けて行くと穗高神社といふさゝやかな社がある、そこでは御札を繪葉書を賣つてゐるが番人がゐない、價を書いて箱が置いてあるだけだ、饒は箱の中に露出してゐる「人を見たら泥棒と思ひ」といふ諺はこゝでは適用しないらしい。

明神池

社殿の後が直ぐ明神池だそして對岸には水際から直ちに七千尺の明神嶽て屏風の樣にきりたつてゐてその姿を倒まに池の面に寫しいでゐる、然かし第一の池は小島が枝から枝へ島から島へと飛び交つて人を恐れる樣子が見わない。

更に清列そのものゝ水中にはイワナがスイ大イと泳ぐ名も知らぬ大鳥へと飛び交つて人を恐れる樣子が見わない。

然は眼をして八工以上の巧みさ弄ふ。

—（今月今日）—

△節朔參賀ゝ祝酒を渡す（明治二）△支那動亂我が陸戰隊漢口に上陸す（大正一五）△朝鮮總督府地制改正（明治四三）△英米平和條約成る、之れより米國の獨立世界に公認せられ國力日に發展す（記元一、七八三年）△クロンウエル歿す年五十九（記元一、六五八）△ツルゲネーフ歿す、トルストイ、ゴルキイと共に露國近代の文豪、その著「獵日記」は人日記ルーデン」はその傑作である（記元一、八八三年）

豐間の海

高久晩霞

（一）

○靜かなる景色よき海に浴みせまくと便りに書きし都の義弟

○近くして海水浴場あまた有るを義弟の爲めにいづち撰ばむ

○新しき浴場として名を得たる豐間の海に夏を遊ばむか

○若き友の眞ごころうれし吾等皆喜べる家ゞ濱邊に見出でし

○かにかくに貸間のあるじと謀らひて臨時別莊すなはちなりぬ

○取り出でし吾がバスケットに何日せむ旅ぞと妻の笑ひけるかも

○暑き街ゞ雲雨も早く離るもとわが自動車の海にひた走る

○自動車の窓より風の一しほに冷たや來海近みかも

○なりはひに幾度過りし道なれど子等とい行けば旅心湧く

○自動車を出づればすでに潮の香の高き海風われに迫り來

（續く）

赤鞘安兵衛

東京　桃川燕二演

村田月光畫

（四十一）

佐々木友一目を見張つた「貴公が拙者の屋敷に泊まれば家祿を召し放されるほどのお咎めを蒙むるゝは分らぬ話し、其んな馬鹿なことがあるものか」……「イヤある、本統にある、今夜とは分らぬが明日になればそれが降つて湧いてくるのだ」……「貴公の天氣豫報など當になるものか」と云つたが、友一も薄氣味惡い事に思つて、强いてとは申しません」……「佐々木貴公は拙者より酒は兄だ、サア呑め」……「ウム、飲むことは飲むがなあ」……

「何を考へる、拙者は最前から散々考へて考へは十分酒だ〳〵呑め」……「幾だなあ中山が考へたつて、我等の考へることゝは違ふだらうになア」……「違つても敵で緩々お休息をなさるやうに和喜どの佐々木へ酌を」……「ハ、、、ア、隅の方にションボリ兩人の話しを聽いてゐたお和喜に芽が吹いた……「に兄いない、何とお和喜どの然うではござらんか」……「ハイ全く左樣でございます、逢ひ終ひなどと緣喜でもないことを仰しやらずに兄の家で不都合ならば手前共屋敷の腰掛假屋で旅籠屋ではありませんから」……「旅籠屋でないのが氣に入つた旅籠屋となると外の泊り客もなことは仰せなく只拙者のみ、內談など開かれては夫れでは」……「妹まだ居たのか、早く歸つたらどうだ」アイヤ佐々木、に和ゝ貴どのには氣の毒だが、今夜は一ツ付き合つて貰ふ新發田へ足を入れるのも明日だが、又足を延くのも明日だ、是れがマア逢ひ終ひになるだらう、親類も身寄りもない拙者だ、せめて劫馴染と飲み明かし話し明かしたい、六兵衛存在ならば引止めもせんが、後家は天井抜けと申す、薄友と話し明かしたとて後めいだ事は云ふ通りに交際ドさい」……「困る、其處が取り餌で結構に淋しいことを云ふ氣掛りだ」……「御冗談を仰しやゝ「是れは妹と同感だ、變だ」……「御冗談を仰しやゝ爲どのには孫ばかり、お客樣が夜ゝ中あつては眠ることも出來ゝ「佐々木貴公はそんな愚ません」……「一晩位は我慢しろ、ソーラ我慢賀だぞ」……「ヒエーツ」……「何うも中ゝ山の云ふことは胸に落ちぬなア」……「胸などに落ちなくてもよい……あゝ是ゝ……「へエ〳〵」……「胸に重ね返事をす……「胸に重ね返事をすゝるでないか、酒の代りをド

ン〳〵持つて參れ、夫れから今夜は一ト晩中呑明かす約束が出來たぞ」……「えゝ手前でさございますか」……「誠に濟みませんが、手前共は賣買の腰掛假屋で旅籠屋ではありませんから」……「旅籠屋でないのが氣に入つた旅籠屋となると外の泊り客もひづき怠々最後の物凄い爭鬪場面の撮影にかゝつたが二十九、三十の兩夜ぶつ通しの夜間撮影には街のダークサイドを横行するガングが警官隊の襲撃に遭ひ猛烈な格鬪を展開するシーンで扉口に積み重ねた椅子が俄然崩れ落ち惡漢の一人（岬洋兒）はまともに椅子を頭に打つつけて鮮血にまみれながら昏倒、警官が介抱に廻るなど急づまるやうな凄慘な場面にとんだ喜劇の一幕を入れた。尙ほ同映畫はたそくも來月初旬には愈々完成の運びとなる模樣である。

映畫欄

鮮血迸る

『野獸群』の大格鬪

來月初旬完成か

帝キネ中野英治の『野獸群』外高津慶子の病氣全快で勢ひづき怠々最後の物凄い爭鬪場面の撮影にかゝつたが二十九、三十の兩夜ぶつ通しの夜間撮影には街のダークサイドを横行するガングが警官隊の襲撃に遭ひ猛烈な格鬪を展開するシーンで扉口に積み重ねた椅子が俄然崩れ落ち惡漢の一人（岬洋兒）はまともに椅子を頭に打つつけて鮮血にまみれながら昏倒、警官が介抱に廻るなど急づまるやうな凄慘な場面にとんだ喜劇の一幕を入れた。尙ほ同映畫はたそくも來月初旬には愈々完成の運びとなる模樣である。

盂蘭盆會に就て

（七）

最勝院住職　阿都崇順氏講演

ナウマクサラバタタギャタ、バロキテイ、ヲン、サンバラ——サンバラ——ウン

勿論これには別々種々の委しき修法があるので、こんな簡單なものではないがその大要は左の如くであります。阿羅尊者は此の法を授かりまして壽命を喰ひ止められて且つ又が き衆を助けしたのみが、今日まで其の慈光を遺されたは誠に喜ぶべき事であります。

されば この方法は盆祭の時にかぎらず、何時でも隨時に修して宜しいのであります、今日各寺院に於てこの施がき法を合せて盆祭には修法する樣になつて來ました然しこれは便宜上から斯く云ふ習慣になつたことゝの思はれます。

九、緣なき衆生は度し難し

維摩經の中に『高原陸地には蓮花を生せず、卑濕泥に泥にはよく蓮花を生ずる』とあります。妙なもので、井蛙に氷雪のあることを語るも、夫れを眞受にしなければ舌人は所謂緣なき衆上は度しを難しで、敢へて佛陀世尊の嘆のみではない、古人の申置かれた言葉の中に夏の虫には永や雪のことを語つてはならぬ、井の中の蛙には大海を語つてはならぬ、と云ふ事がありますが、その心は何うかと云ふに、語活きて居つたし、今日のたり聞かせても役に立たぬか互も矢張り出息入息をしてらと云ふ事になる。何故役に立たぬかは立たぬであらうがそれはに見た事も聞いた事もないからのことであります見た事も聞いた事もない、夏虫やは井蛙に氷雪のあることを語つて、大海あることを語るゆるも、いで入息のたゆるまつほど

で實に此身の法常なことは出る息の入るを待たぬはかなき命であります。又僧山禪師は『息を轉ずれば即ち是れ衆生』と示しなされて修法する樣になつて來ましたが、これは便宜上から斯く云ふ習慣になつたことゝの思はれます。

九、緣なき衆生は度し難し

維摩經の中に『高原陸地には蓮花を生せず、卑濕泥に泥にはよく蓮花を生ずる』とあります。妙なもので、井蛙に氷雪のあることを語るも、夫れを眞受にしなければ舌人は所謂緣なき衆上は度しを難しで、敢へて佛陀世尊のの。今も亦その通で目連尊は遠い年月を隔つた昔嘶しであります。昔嘶しであるが、事實は今日と少しも變らぬ。何んとなれば昔の人の呼吸の出息入息をしてゐも矢張り出息入息をしてゐるではあるまいか。皆さんはこの時間に長短のあることを御存じ

短は一セコンドを始め長は無數に到る佛教では時短い時を刹那といひ、極長時を兩僧祇と申します。

後の世と云へば遙かに聞く息の入るを待たぬはかなき命であります。又僧山禪師は『息を轉ずれば即ち是れ衆生』と示しなされて修法する樣になつて來ましたが、これは便宜上から斯く云ふ習慣になつたことゝの思はれます。

九、緣なき衆生は度し難し

維摩經の中に『高原陸地には蓮花を生せず、卑濕泥に泥にはよく蓮花を生ずる』とあります。妙なもので、井蛙に氷雪のあることを語るも、夫れを眞受にしなければ舌人は所謂緣なき衆上は度しを難しで、敢へて佛陀世尊のの。今も亦その通で目連尊は遠い年月を隔つた昔嘶しであります。昔嘶しであるが、事實は今日と少しも變らぬ。何んとなれば昔の人の呼吸の出息入息をしてゐも矢張り出息入息をしてゐるではあるまいか。皆さんはこの時間に長短のあることを御存じ

短は一セコンドを始め長は無數に到る佛教では時短い時を刹那といひ、極長時を兩僧祇と申します。

専門　内科一般
内科ハ何デモ診療致シマス
呼吸器病バカリデハアリマセン
平町南町六五
川井内科診療所
醫學士　川井重之
女醫　川井安子
電話七二二番

特賣!!
たひら正宗　福島縣清酒品評會一等賞受賞
春　同優等賞受賞
醬油醸造元
鹽屋　山崎合名會社
電話一〇番

平新川町十九
木村病院
電話一六四
產婦人科　院長木村寅次郎
女醫　木村コウ
內臟外科　醫學士　松永憲一
整形外科
藥局　東京藥學士　萩原駿二

不思議な補靈效
養命酒
其の白熱的賣行は何を物語るか？
左の病む人々に勸む
一、肺病、ロクマク、神經衰弱、胃病、婦人病、營養不良、に對する特異の靈効を有す。
直ちに御試用を乞ふ。
平町五丁目角
縣下一手販賣店　山野邊藥局
定價　試用分　一、二〇
約廿日分　三、〇〇
約四十日分　四、〇〇

一圓十錢のフランス
マルソー、ブランク
マルソー、ルージ　生葡萄酒
優良にして安價賣行き飛ぶが如し
平二　西村屋藥舗
にはなし　三番

長品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
金物問屋
和洋銅鐵　㊋　釜屋商店
磐城國平町五丁目
電話九番一三九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は㊋の生命なり

診療
夜間
内科　十二指腸病
淋病　婦人病
皮膚病
專門部
內科部
外科部
松村醫學士病院
（平南町電話一〇七番）

貸地廣告
平町郡役所より稅務署附近の新開地に五百餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絕對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極く安値にお貸しいたします
御希望の方は電話なり來げば社員が伺ひしに親しく御相談に應じます
小名濱商事株式會社
平出張所
電話六〇三番　五四一番

耳鼻咽喉科專門
日本醫大醫學士院長　鈴木正男
齒科口腔外科
日本齒科醫學士　高橋正永
◎晝夜診療
下谷區入谷町二九一
入谷改正通り東交番前
鈴木醫院

生花教授
池ノ坊流　生花を眼切町等に御教授いたします。お遊びがてら御出で下れい。
平町五丁目十六番地
須藤　つの

膨れる平町！

年五百人の増加

十年間に八百戸五千人

前回國調との比較

本月一日午前零時に執行する第二回國勢調査に關し平町では本日五六日頃調査員三百九名餘備員八名の打合せ會を催し二十一日より町内各區一齊に準備調査を開始するが昨年十月一日現在の同町世帯數は四千七百三十八戸人口二萬七千百九十七人で大正九年十月の第一回調査當時に比し世帯數約八百四十八戸人口四千七百五十人の増加を示し一年當りの増加率は大体八九十戸人口五百人位の割合になつてゐる、今回の調査に際しては成るべく當人をして自署せしむる事になつてゐるので二十一日以降の準備調査により一般町民の教育程度なども薄々わかる筈である

が注意事項としては

一般の注意

一、文字は明瞭に墨又は黑色インキにて記入すること

二、同一の記入事項がいくつあつても同一同上と記入せず繰返し、記入すること

三、記入事項の誤りを發見して訂正する場合には線を引いて抹消し、其の傍に正しき記入を爲すこと

記入の範圍

申告書に書入せるべき者は左記（いろは）に當る者に限る。之に當らない者はたとひ家族であつても一切記入してはならない

（い）調査の時期、即ち九月一日午前零時（九月三十日から十月一日に移る夜半）に世帯に現在した者は家族であると否とを問はず總て漏なく記入すること、調査の時期前に生れた者及世帯に入つた者、調査の時期後に死亡した者及世帯を去つた者は之を記入すること（調査の時期前に死亡した者及世帯を去つた者時期後に生れた總及世帯に入つた者は之を記入しない）

（ろ）十月一日午前零時に偶々屋外に在り又は夜業夜勤宿直等の爲世帯のない場所に在つても、十月一日中に自己の世帯に歸るべき者は其の世帯に現在した者として記入すること

（は）十月一日午前零時に汽車、電車、世帯のない舟筏又は陸路の旅行中にして旅店其の他の世帯に宿泊しないことが豫め明な者は最後に出發した世帯に現在した者として記入すること

などで尚ほ之れ以前に於し戸籍謄本或は寄留謄本抄本の類を準備して置くが相互の便宜である

植田繭市場

資本金九萬圓で植田町では産業組合組織による繭市場を設置すべく盛取引を開始するが代表者は付小柳知學から繭市場規則第二條により免許された同市場は出資口數約三千、資本金九萬圓、一口三十圓の拂込で今秋蠶繭から開場、同町長驚清弁氏である。これによつて産業組合組織による縣下の繭市場は九ケ所となつたわけである

署長が骨折った 理髮業調停決裂

結局知事迄行く乎

組合の態度硬化す

平理髮業組合では二日午後一時宮川氏に關する署長の調停案に對し不服なりとして之れを拒絶したが組合側の强制組合の本旨から見て意向としては是れまで組合を紛亂せしめた宮川氏の措置を不問に附すが如きは今後の統制上にも面白からぬ結果を招徠すると云ふ見地から知事に對し縣令理髮業組合規定に基く裁斷を申請する處迄に行きかねまじき形勢にある

四倉舊盆市

四倉町舊盆市は舊十一日朝より仲町道路に盆提灯、青物類の準備出來次第より人出を見る筈であらうと

漂泊土工に

四倉町長の情

入分縣南濱邊郡大入島村字片上浦四〇一ノ二柴下佐太郎（五七）は大正十二年家庭の事情と北海道に渡り昭和五年七月迄で鐵道工事に從事中右足並に腰に負傷し勞働出來ぬ身となり土工頭の情に七月下旬盛岡迄辿りつきころ立つた姉と云ふのが二人分縣南濱邊郡大入島村字片上浦四〇一ノ二柴下佐太郎（五七）は大正十二年家庭の事情と北海道に渡り昭和五年七月迄で鐵道工事に從事中右足並に腰に負傷し勞働出來ぬ身となり土工頭の情に七月下旬盛岡迄辿りつきころ立つた姉と云ふのが二人分縣南濱邊郡大入島村字片上浦四〇一ノ二柴下佐太郎（五七）は大正十二年家庭の事情と北海道に渡り昭和五年七月迄で鐵道工事に從事中右足並に腰に負傷し勞働出來ぬ身となり土工頭の情に七月下旬盛岡迄辿りつき

賣掛を押えて 滯納稅金に充當

整理上已むを得ず

平稅務署で斷行

石城郡赤井村酒造業木田吟の賣掛代金差押は極めて稀な事で一般には賣掛代の差押はないものと信じて居たものが多かつたので今更一般商人狼狽を來してゐる、中につき平稅務署では酒の稅金は非常に嚴格な

投槍

投稿歓迎

宴會負擔の不公平

昨今どこの農村に出張しても「けふびはお役人様の様な月給取りに限りますな」といつた話は毎日日常に夕飯をふことになつて土地の料亭に案内する。

◇

これが少ない月ですらこの回乃至三回は必ずある一回の夕飯接待費が二圓から二圓五十錢それを俸給から差引かれるが私共のやうに旅費ぐるみで四十余圓の薄給

◇

私共薄給者にとつて一番こまるのは上局官廳や他管内の重だつた人々が出張して來ることだ、これが來るとすぐにいくら不景氣でもなんと三十一日の袋が軽いとすぐにいくら不景氣でも敬意を表さなくちやと、簡こと上それでだこれ等の支辨はよろしく俸給割にすべきだと思ふ、同じ仕事に同じく騷命にベストをつくしても結局年末のボーナスは俸給割で頂戴に及ぶのだ。

◇

それから私共の役目の長なる人や重だつた人々が上局或は他管内に出張するとこちらでやつと同じことをやつてむこうでは待遇するから相殺が出來ても私共薄給者が出張したのではろくな茶も呉れない、だのに宴會費吉凶の見舞とり出すのは平等割なんだこんな馬鹿化た不公平非合理的な事實があるんだらうか。

◇

これは年末賞與並に俸給割で支辨するのが純理であり安當だと思ふが誰が考へても、賢明なる小柳知事閣下よこんな點にも私共小役人の悲哀があるのだ、私共はこの不公平を閣下の力によつて改正されんことを念願してゐるものだ。

◇

これによつて少しでも私共小役人の生活の潤ひが出來るものと確信する、そしてそれによつて浮かぶものは獨り私共ばかりでなく縣下何百かの薄給小役人が（こかもみんな閣下の家來だ！）あることを忘れなきやうお願ひしたい。

（薄給者投）

君にとつては痛手であり迷惑千萬なことである。

◇

それが年度末や年度始めになると月六回乃至八回だ迷惑千萬なことである。

◇

それから沿道各町村の役場（四）は免許狀なく平陽女學校酒井みよ氏外數名に指壓療法を行つた事發覺中警に取調中である

農事實疑會

明日の開催

郡農會主催農事自般實疑大會は四日午後一時から好間村役場で開催郡農會より柴田、青山技手神谷農試分場より稻崎技手米穀檢査所より名取川所長養蠶同業組合上勝を示して居る當手は九名で近江名林製糸場磐陽都製糸場外六名であると

無免許療治

其の筋で取調中

平町字掘越小路下宿屋今津屋方止宿按摩業三橋善造

四倉繭相場

四倉繭市場二日九日目の相場は最高二圓四十五錢最低一圓七十錢平均二圓九錢掛目二二總貫數二千百十四貫四百二十匁累計一萬五千七百十六貫九百九十匁で品質も漸次良好となつて來たので勢上騰を示して居る當手は九名で近江名林製糸場磐陽都製糸場外六名であると

平署選手權爭覇

本縣警察官神宮武道大會豫選は近く福島縣で開催される平署では今三日正午から豫選出場選手決定の爲劍柔道の點取試合を行つた

水道委員費の増大に 町の眞意を疑ふ

時節柄辻褄合はぬと

一部識者の批評

二十萬圓足らずの永道工事御歴々三十名の所謂町の選良諸君が目の色を變へて出しになる、尤も以上の數字は今後緊縮節約方針の勵行によつて漸次その形勢の一變を見る事が出來るものと豫想されるが諸事節約の折柄ひとり水道委員の費用辨償規程は

五年度一人一日一圓五十錢二百四十三日分三百六十五圓四十錢を一日二圓八百四十八圓に△六年度一圓五十錢三百六十五日五百四十七圓五十錢を二圓この金額千四百六十圓に△之の外區外出張費新設五年度五百圓六年度三百圓以上合計三千百八圓以上合計四千百十二圓に對し一躍三倍四分强の激増を示してゐるので之の

幽靈保證人

貸主憤慨告訴

平町仲間町横山キク（三八）は過般平町新道通り木炭商柳沼忠一（三七）へ保證人鐵道局齋藤某を立て金百圓を貸與したが其後齋藤某は事實無根の人物である事を知り柳沼は夜逃をし行方不明でトンだが宮城縣石巻の巻に潜伏して居る事が判明したので石の巻署へ告訴した

梨界品評打合

郡農會主催で石城梨荷造品評會を平署會議室で五六七の三日間開催するがそれに付て今三日午後一時から郡農會樓上會議室で打合せを開催

辭令

磐城高女校助教諭任同校教諭 穴井重喜

任磐城高女校教諭 大井よし

平商業學校教授囑託任同校教諭 泉田亮

平町人事

△出生

平町舊城跡四二酒類販賣業前田正二男英明

平町材木町十一古物商二面首五男雅義

△死亡

平町白銀町十四横濱市眞砂町二町目十四飲食店杉山權兵衛（五二）

農會員選挙

遂に見舞はるゝことあり進みて吉△四條の人、平和を第一として一家同體となりて働くべし△五頭の人、勇氣祈るれば何事も破れを生ずるに至べし△六白の人、旅榮强ければ不意に急轉直下することあり△七赤の人、根强く足元に注意して進む時は失吉日たり△八白の人、深入りする時は引返しの出來ぬ破目に陷る△九紫の人、大事を企つるときは成らんとして破れあり

片寄氏白米施與

之濱町字仲町米穀商町會諮員片寄貞次郎氏は亡妻追善供養のため町内貧困者に對し一人白米三升宛を贈るとと

拈華微笑

藝者が愚痴る 紋がわり

□ 年に五百人増加

□ 物價指數空前の六年後の平町は

□ 低利資金の流出で盆上りに一と